



総則・評価特別部会 取りまとめ (案) から ⑦

調整授業時数制度の具体化 その 7

7 裁量的な時間（研究・研修等枠の上限）

- ◆ 「研究・研修等枠」は、児童・生徒の学習に充てる時間の一部を、教育の質の向上に直結する学校の研究・研修等に充てるものであることから、その時数の在り方に関しては、研究開発学校等で蓄積された知見やノウハウも踏まえ適切な運用や上限の在り方を慎重に検討することが必要である。
- ◆ 仮に年間を通じて計画的に研究・研修等の時間を確保できない上限を設定した場合、週時程等に計画的に組み込むことが難しくなり、結果として「時間があれば随時取り組む」といった断続的・場当たりの実践となる恐れがあり、効果的な実践につながらない懸念がある。
- ◆ 「統合的な理解・総合的な発揮」を活用した深い学びの実現に向けた単元構想や、多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程編成を各学校で実現できるようにしていくためにも、全ての学校で学期中も含めて組織的な研究・研修等を継続的に実施できる仕組みを整えておくことが極めて重要である。このことは、「深い学びの実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」を三位一体で実現するという論点整理の方向性を実現する上で不可欠である。
- ◆ 制度創設に当たっては、まず、週 1 コマ（最大 35 コマ）程度を研究・研修等枠の上限として設定し、週時程等に計画的に組み込みつつ取り組みを進められるようにした上で、施行状況を踏まえ必要に応じて見直しを図ることが適当である。
- ◆ 週当たりコマ数の縮減との関係も重要である。調整授業時数の効果的な活用や教科書の精選により、年度当初の計画段階で真に必要な授業時数を設定することが容易となり、40 週での授業実施を前提にすれば、週 28 コマの週時程が一層実現しやすくなる。これに加えて、調整授業時数を活用して週 1 コマ程度の研究・研修等枠が確保できるようにすることで、週 27 コマの授業＋研究・研修 1 コマといった週時程が一般的となるような環境を作っていくことも重要である。

世界に誇る日本へ

京セラ名誉会長、KDDI 最高顧問、日本航空名誉顧問 稲盛和夫

一人一人の日本人が、利他の心をもち、世のため人のために尽くそうと思い始めるとき、日本は本当に素晴らしい国になれるのだと思います。

出典：「稲盛和夫一日一言 運命を高める言葉」（稲盛和夫著 致知出版社）

※ 「利他」の対極は「利己」。まずは私たちが「利他」の心をもつことから始めたいものです。